

平成 29 年度

佐賀県高度情報化推進協議会

第2回幹事会本資料



日時:平成29年9月28日(木)14時00分～
場所:アバンセ4階 第1研修室A

本日の次第

- 1 開 会
- 2 新幹事紹介
- 3 会長挨拶
- 4 議 題
 - (1) あり方検討プロジェクトチーム会議の経過報告について【報告事項】
 - (2) 今年度上半期事業報告について 【報告事項】
 - (3) 今年度下半期事業計画(案)について 【決議事項】
- 5 その他

会議の目的

1 [報告事項]

あり方検討会議の現段階でとりまとめた内容についてご報告するとともに、協議をしていただく。

2 [報告事項]

上半期事業の実施概要についてご報告するとともに、今後の改善等に向けたご意見等をいただく。

3 [決議事項]

2の報告を踏まえ、企画運営Gが検討した下半期事業の運営方針について決定をしていただく。

議題(1)

あり方検討会議の
経過報告について
【報告事項】

議題(1) あり方検討会の経過報告について

1. メンバー選出(第1回幹事会にて)

| 役 職 | カテゴリーなど | 氏名(敬称略) |
|---|----------------|---------|
| 佐賀県 情報統括監(CIO) | 高情協会長 | 藤原 久嗣 |
| 佐賀大学総合情報基盤センター | 高情協副会長・各種団体・学校 | 松前 進 |
| (株)佐賀電算センター | ソフト・情処など | 岩永 信二 |
| (株)佐賀情報ビジネス | ソフト・情処など | 江島 光代 |
| 株式会社佐賀新聞社 編集局次長 兼 メディアコンテンツ室長 兼 論説委員 | メディア・通信・電器など | 森本 貴彦 |
| 西日本電信電話(株)佐賀支店 | メディア・通信・電器など | 加藤 郁雄 |
| NPO法人シニア情報生活アドバイザー佐賀 | 市民社会組織・個人 | 久野 美津代 |
| 多久市情報課長 | 地方自治体・特別会員 | 百武 芳和 |
| (公財)佐賀県地域産業支援センター | 各種団体・学校 | 志波 幸男 |
| 佐賀大学経済学部 准教授 | 各種団体・学校 | 羽石 寛志 |

※ リーダーに藤原CIOを選出

議題(1) あり方検討会の経過報告について

※選出条件

- ・幹事会設置・運営規程第2条2にある5グループからできるだけ平等に選出した。
- ・幹事会メンバーより自薦、他薦により選出した。

2. 第1回会議の概要 6月6日(火) 検討会メンバー10名+事務局2名

1) サブリーダーの選出

- ・(株)佐賀電算センター 岩永 信二 氏
- ・佐賀大学経済学部 羽石 寛志 氏

2) 協議会の目的の再確認・5年間の活動事例・ 過去のあり方検討会における議論の再確認

3) フリートーク

議題(1) あり方検討会の経過報告について

- 高情協の「目的」が価値理念そのもの。例えば、医療現場などにおいて、高齢者にとって不便な手続きが多いと感じている。高齢化が進んで、市役所、町役場に行くことも大変になっていく中で、県民目線で見えていかないと、的確な対応ができないと感じている。
- 今は会員がメリットを感じていない。だから何も意見が出ないし、毎年同じことの繰り返し。
- それぞれの会員がメリットを明確化できれば、参加意欲が向上し、よりよい団体になるのでは。高情協は新規創造の場、マッチングの場、産官学連携基盤の場。
- 「高度情報化推進協議会」という名前を聞いて、情報の分野について、最新の情報が得られるだろうと思って入会したが、実態は違って、特に得られるものはなかった。高情協に入って一番良かったのは、人脈ができて、みなさんとつながりができたこと。今はシニアがATMの使い方すら分からず困っている。また、最新の機器がどういうものがあるのかも特に地方の方はよく分かっていないので、地方の底上げが必要ではないか。昔あったような展示会をやってほしい。
- 公民館等での講習会に来る人は、まだ経済的にも健康的にも豊かな人。経済的な理由や障害をお持ちだとかで参加できない人もいる。今までの高情協は、そのような豊かな人向けの事業を考えていたが、これからは、参加できない、いわゆる情報化弱者向けの事業を検討すべきでは。

議題(1) あり方検討会の経過報告について

- ・講演会については、旬なテーマで業務上必要な場合もある。遠方に研修に行く予算もついていないことも多いので、佐賀で話が聞けるのはありがたい。
- ・一般会員の企業からすると、総会・講演会で高情協への関わりが終わっているのかもしれない。それぞれの会員の生の要望を伺う機会がない。だが、この協議会のあり方をどうするかという時は、会員にも意見を聞いた方がいい。
- ・県が必ずしも高情協の主体である必要はないと思う。事業によっては、民間や大学が主になって取りまとめていってもらった方がいい。結果として県が主体となることもあるかもしれないが、県が常に主体となると、会員はどうしても受け身になりがちになる。そのような組織では活性化するとは思えない。受け身の姿勢は良くない。
- ・ICTリテラシー向上など市町単独では、なかなか難しい。協議会の中でやってもらって甘えている部分はある。
- ・これほど多くの産・官・学の会員が参画しているにもかかわらず、現在の活動状況はとてつもないと感じている。より多くの会員が参画する事業や新しい取り組みなど、協議会をより活性化させていく必要がある。しかし、もしそのような事業がないのであれば、廃止や休止なども含め検討する必要があると考える。検討会のメンバーだけでなく、会員も含めて、新しい事業や提案をいただきたい。

議題(1) あり方検討会の経過報告について

3. 新規事業の募集 6月13日(火)~26(月) 5会員からの提案あり



4. 第2回会議の概要 6月28日(水) 検討会メンバー9名+事務局2名

1) 事業の選定方法、進め方

- ・(前回の確認)みんなで参画できる大きな事業をやっていきたいという結論になった。新しい事業の提案がなされ、その事業を行っていくとなれば、高情協はその受け皿として存続させる。
- ・5会員の事業提案について話を聞いて、高情協としてやるべきことがあると認識できたなら、あり方検討会議の意見として、企画運営Gにこういう事業を行ったらいいのではと引き継ぐこととする。

議題(1) あり方検討会の経過報告について

2) 事業提案・質疑

1. NTT西日本（加藤）

※名前は敬称略

『佐賀オープンクラウドプラットフォーム』

佐賀県内複数事業者による多目的かつ利用しやすいクラウドプラットフォームの実現。佐賀県内事業者を中心とした運営とし経済活動の活性化を狙うとともに、県内利用者が簡易に利用開始、利用継続できるクラウドプラットフォームを実現する。

2. 佐賀県庁（藤原）

『さが・スマート決済化構想』

3. 佐賀大学（羽石）

①『県内企業と学生との就職マッチングポータルサイトを中心とした企業と学生とをつなぐシステムの構築』

- ・Webサービスの構築とともに、学生と企業とのマッチングシステムを構築
- ・インターンシップやアルバイトなどのマッチング
- ・学生のICTリテラシーを高め、企業のICT支援を行うことで、企業とのマッチングを行う。

②『電子マネーの利活用県内実証実験』

- ・佐賀大学生（約6000人）の実証実験
- ・街中の活性化

議題(1) あり方検討会の経過報告について

4. プライム（青木）

『電子決済の課題・問題抽出とその対応策について』

- ・電子決済普及の為の課題・問題抽出
- ・電子決済普及の施策（案）提起

5. S I A 佐賀（久野）

①『メールマガジンの発信で会員への新しい情報提供』

会員になっても得るものが無いということに対し、情報不足解消

②『ICTフェア（年1回程度 産学官民一堂に揃って情報発信と交流）』

- ・企業の最新機器等の展示会（見て、触って、利用価値を知ってもらう）
- ・情報リテラシー向上やICTの啓発のためのセミナー
- ・情報セキュリティセミナー
- ・ICT化の支援・相談コーナー・・・導入の相談やサポート

議題(1) あり方検討会の経過報告について

■あり方検討会としての結論(案)

<高情協の現状に対する認識>

- 現在の高情協の理念(規約の「目的」や「事業」)に異論はない。
- 高情協が現在取り組んでいる講演会や講習会等の事業を行うことは、意味のあることだと認識している。ただし、それを単に繰り返すだけでは、もったいなさや物足りなさを感じる。

- ・事業が形骸化している
- ・会員としてのメリットが感じられない
- ・より多くの会員が参加できる事業となっていない など



<結論(案)>

高情協を存続させる条件として、より多くの会員が参画しうる事業や新しい取り組みをもって、組織のさらなる活性化を図ることが必要 ⇒ 新たな事業として、5会員から7件の提案があった。
各提案の事業化については、企画運営Gで検討していく。

議題(2)

今年度上半期
事業報告について
【報告事項】

議題(2) 今年度上半期事業報告について

中期推進項目(H29~H30年度)

①情報リテラシー・情報セキュリティの普及推進

若年層を中心とした急速なICT機器の普及に加え、生活のあらゆる場面で新しいICTサービスが次々に提供され、ICT利用者の裾野が急激に広がった一方で、利用者側の情報リテラシー・情報セキュリティの普及は、未だ十分とは言えないことから、今後とも重点的に、県民向けの普及推進を図る。

また、企業にとっても情報セキュリティリスクが高まる中で、特に中小企業はその対策が遅れているという状況にあることから、関係機関・団体等と協力して、対応が困難である中小企業の情報セキュリティ対策の重要性について普及啓発を進める。

②ICT利活用普及推進

ICT利用初心者はもとより、十分な利活用に至っていない方に対し、趣味、買物、健康、安全、見守りなど、生活の様々な場面で、ICTの恩恵を十分に受けられるよう、ICT機器やICTサービスの普及動向や利用者ニーズに対応した、より効果的な普及推進を図る。

議題(2) 今年度上半期事業報告について

中期推進項目(H29~H30年度)

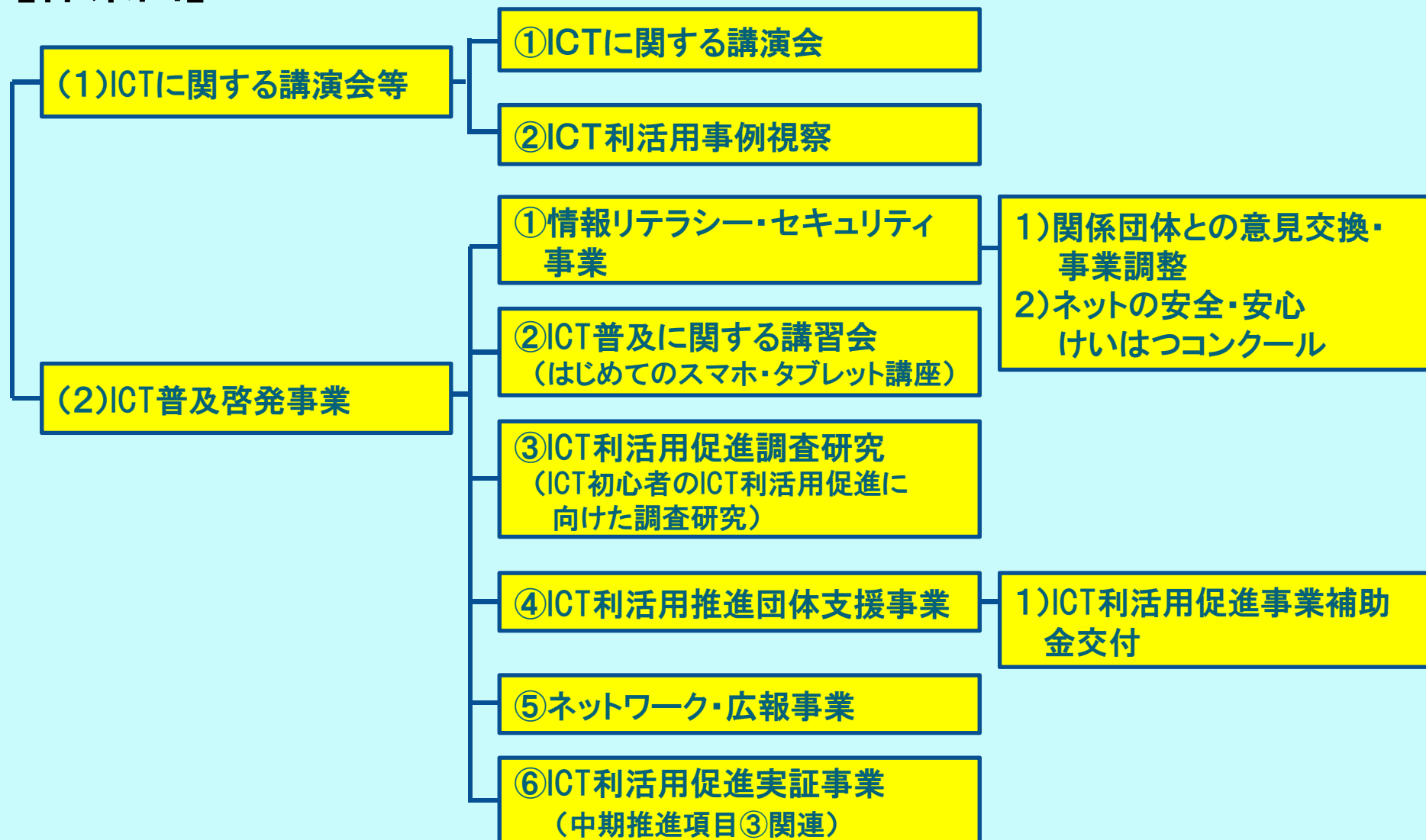
③県民が実感できる効果的なICTの利活用促進

医療・福祉、健康増進、観光、農林水産業や商工業等において、県民が「効果を実感できるICTの利活用」促進に資するため、ICTの先進的な利活用事例の調査や佐賀県内の企業、自治体、大学などの産学官の連携を促して、ICTを活用した「仕組み」を検討し、きっかけとなる取組の企画立案を行う。

また、IoT、ビッグデータ、AI、ブロックチェーン、オープンソースソフトウェアなど、刻々と進化する最先端の技術や社会情勢、国の動向等について、情報収集等を行い、県民、県内中小事業者等に提供する。

議題(2) 今年度上半期事業報告について

[体系図]



議題(2) 今年度上半期事業報告について

1 会議 (1)定期総会 (2)幹事会



【定期総会】

期日：平成29年5月23日(火)

13:30～14:20

場所：グランデはがくれ

有効出席会員数：96会員（出席63・委任状33）

出席者数：76名

【幹事会】

開催日：4月26日(水)

14:00～16:00

場所：メートプラザ佐賀

議題(2) 今年度上半期事業報告について

2 幹事会直轄事業 (1)ICTに関する講演会等

【第1回ICT利活用講演会】

- ◆「IoT」をテーマに開催
- ◆参加者は昨年の108名から今年は104名と横ばい
 - ⇒特に増加したのは大学・専門学校1名→10名(10倍増加)
 - ⇒IoTやAI(人工知能)等の最先端技術への関心が引き続き高い



期日：平成29年5月23日(火)
14:45～16:45
場所：グランデはがくれ
出席者数：104名
(会員91名 一般13名)

井下田久幸氏(ドルフィア株式会社)より「IoTの進展がもたらす近未来」を演題に講演いただいた。
講演後、森本貴彦氏(佐賀新聞社)との対談を行った。

議題(2) 今年度上半期事業報告について

【アンケート結果、感想等】

◆参加者の88%が高い評価(満足度)

(主な感想)

- ・「IoTの具体的な事例がわかりやすかった」
- ・「先端技術の例だけでなく、活かし方等の他の視点も大切なことを教えてもらった」
- ・「IoTが人を支えることを示してくれた」

◆受講者が興味をもっているテーマ(アンケート結果より)

・ AI(人工知能) 38名

・ IoT 36名

・ (企業・団体向け)情報セキュリティ 17名

・ (個人向け)情報セキュリティ 17名

・ ビッグデータ 16名

・ クラウドコンピューティング 12名

・ オープンデータ 11名



・ テレワーク 10名

・ マイナンバー制度 10名

議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)①情報リテラシー・セキュリティ事業

昨年度本協議会が協力した関係団体の事業の今年度の状況

| | | |
|---------------|---|---|
| イベント | 佐賀県サイバーセキュリティ対策セミナー | ネットの安全・安心 ポスターコンクール |
| 主催 | 佐賀県警、佐賀県、中小企業支援機関 | ネットの安全・安心けいはつ コンクール実行委員会 |
| イベント 内容 | 中小企業向け情報セキュリティ研修会 | 小中高校生向け普及啓発のためのポス ター・動画等のコンクール |
| 協力 内容 | 名義後援 | 本協議会として実行委員会へ参画 (藤原会長が実行委員に就任) |
| |  |  |
| 今年度の予 定 | 中小企業・自治体向け情報セキュリティ研 修会を昨年度同様に開催 | 今年度も「けいはつコンクール」を昨年度同 様に実施 |
| 当協議会の 協力内容 | ・主催6団体と連携した取組展開に向けた 調整 ・10/3中小企業セミナーの名義後援 | 本協議会として今年度も実行委員会に参 画(藤原会長は実行委員に就任) |

議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)②ICT普及に関する講習会

『わくわくインターネットでお買い物体験セカンドハウス』を7月に開催

- ◆7/3(月)・12(水)に使いこなし体験会を開催 ※6(木)は大雨の影響で中止
- ◆参加者は少数、80歳代～90歳代が半数を占めた。アンケートは③調査・研究で



SIA佐賀



SIA佐賀



まいづる百貨店



SN佐賀



SN佐賀

会場(セカンドハウス)



議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)②ICT普及に関する講習会

会場(千代田町保健センター・はんぎーホール)

『はじめてのスマホ・タブレット講座in神埼』を9/16(土)に開催予定だったが
↓
台風18号の接近で講習会は延期。12/9(土)・10(日)に延期分を開催。
10日(日)の一部はフォローアップ講座として開催。
会場は当初の予定通り、千代田町保健センター・はんぎーホール。

らくらくスマートフォンセミナー



ドコモCS九州

iPad活用講座 I



中村純一氏

安全につかうためのLINE講座



エヌビーコム

パソコン活用講座 I

SIA佐賀

Facebookに代わりパソコン講座を復活

写真はすべて昨年度のもの

議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)②ICT普及に関する講習会

今回予定していた新たな取組

フォローアップ講座の開催（9／30(土)）

【昨年までの課題】

関係団体の講習会への落とし込みを行っていたが、参加者の本講習会受講後の継続した学習ができる場を、あまり提供できていなかった。

【対応】

- ・iPad活用講座とパソコン活用講座は2週間後にフォローアップ講座を準備。
- ・LINE講座については、講座後1ヶ月間をフォローアップ期間とし、受講生専用の問い合わせ窓口を設置。

議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)②ICT普及に関する講習会

【問題1】定員と申込数の大きなギャップが発生

| | |
|-----------------------------|---------------|
| ①「らくらくスマートフォン」セミナー(定員:計40名) | 申込希望57名(+17名) |
| ②iPad活用講座 I・II(定員:計40名) | 申込希望50名(+10名) |
| ③安全に使うためのLINE講座(定員:20名) | 申込希望22名(+2名) |
| ④パソコン活用講座 I・II(定員:15名) | 申込希望23名(+8名) |

すべての講座で定員超過。特にスマートフォンでは定員の約1.4倍！！

【対応】…定員拡大

LINE講座 …5名拡大(※講師から最大数の制約)

※他の講座は、今回に関しては機器の数が限られたり、新たな会場の確保ができなかったため拡大できず

※ いわゆるガラケーの販売が縮小されているため、買い替え時にスマートフォンを購入しているシニア層が多いものとみられる。今後もスマホ講座の希望者が多く推移しそうである。⇒スマホ講座枠の拡大も視野

議題(2) 今年度上半期事業報告について

(2)②ICT普及に関する講習会

【問題2】フォローアップ講座のための会場確保が難しい

⇒2日間にわたって最低でも4部屋必要とするため、事実上、大きな施設に頼らざるをえない。部屋が確保できても、日程の間隔が空きすぎる等、**タイムリーなフォローアップができなくなる恐れ**もあり。

⇒市には大きな施設が存在するが、**町での開催は難しくなる。**

◆これまでのネックであったiPadの台数については、更新時期を迎えた県(アバンセ貸出事業用)のiPadを、実証事業や今後の初心者向け講習会用に**22台中古で購入**。現在2台は実証事業中のセカンドハウスに常置。20台を講習会で使用。